

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 5月23日

【評価実施概要】

事業所番号	0870600319		
法人名	株式会社 メデカジャパン		
事業所名	下館ケアセンターそよ風		
所在地	茨城県筑西市甲44 (電話) 0296-21-0861		

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成20年5月23日	評価確定日	平成20年10月6日

【情報提供票より】(平成20年4月10日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 14人, 非常勤	人, 常勤換算 人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	2 階建ての	階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000 円)	有りの場合 償却の有無	(有) 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,400 円			

(4)利用者の概要(4月10日現在)

利用者人数	17 名	男性	5 名	女性	12 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	8 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 84 歳	最低	74 歳	最高	96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	明野中央病院 ・ 中山歯科
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

下館市街の中心部の高台に位置されている。正面を大きな神社、美術館など公共の場も多く、利用者の散歩などの外出には、充実した環境と感じた。神社の祭りや地域のイベントごとが目の前で行われる等、利用者が季節の楽しみごとを間近で実感できる場所となっている。また独自の理念を立ち上げ管理者指導のもと地域にとけ込む工夫を取り入れ、自治会はもとより行政とのコミュニケーションを密にし、地域の中学生の介護体験受け入れなどの独自の取り組みにも努力されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価では、災害対策への取り組みについて指摘があった。大規模災害に対する備蓄品を常備し、避難訓練なども積極的に取り入れ災害時への対策を行っている。また地域に対しても災害時の協力を得られるよう積極的に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を職員に伝え、職員の考えや意見を取り入れ評価に取り組まれている。職員には、毎年の事として定着している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的に行われ出席者も充実した会議となっている。会議は運営から事故、行政からの連絡や家族などの意見を積極的に受け入れるなどケアの向上に反映できる内容の会議が行われており、議事録(プログラム)なども閲覧が可能になっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見は、家族会などを利用し管理者が直接家族の意見を積極的に聞き、その内容が改善できるよう、改善計画や会議を開きケアの向上に積極的に取り組まれている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域にとけ込むケアを理念に掲げ、地域への啓発活動はセンター長を中心に、充実した取り組みとなっている。近隣の自治会に参加し回覧板などを利用し認知症の理解を深めたり、グループホームを身近にするための工夫がある。特に着目すべき取り組みと感じた。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との関わりを密にし、地域にとけ込めるよう理念を掲げ認知症の理解を深め、グループホームが地域に理解されるよう努力されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	独自の理念は、管理者及びセンター長を中心として朝の申し送りで職員と唱和するなどして、職員への啓発と理解を深めるために工夫されている。職員も理念を理解しケアの提供に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に参加し回覧板にホーム便りを掲示し地域の理解を深めるための工夫がある。また管理者、センター長が積極的に地域に赴き地域にとけ込んだホーム造りを目指している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を職員に伝え、職員の考えや意見を取り入れ評価に取り組まれている。職員には、毎年の事として定着している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議は地域、家族、行政から出席のもと、積極的に意見交換を行い取り入れられる内容については実践しケアの向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政との連携を重視しセンター長が自ら足を運び、スムーズなコミュニケーションを構築している。また地域の中学生の職場体験などを受け入れることにより、行政との関わりを密にしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に管理者、センター長から直接家族に報告したり、ホーム便りを利用し近況報告を行っている。また緊急時は電話での連絡をこまめに行うなど家族とともに利用者を介護していくという方向性を持って報告を積極的に行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を定期的開催し、家族から直接意見を受け入れ、改善点を明確にし、会議や面接などを行い問題点を改善し運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の定着率が非常に高く、移動による影響は少ない。また移動や退職の場合は、利用者と職員全員でお別れ会を開き利用者の混乱を最小限にしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	部内研修を充実化し、さらに外部の研修にも積極的に参加を管理者自ら行い職員のスキルアップを行っている。また研修は外部、内部を問わず報告研修会を行い職員全体が、共通理解できるよう取り組まれている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会への参加、他事業書へのイベントの参加など他事業書との連携がとれるよう独自の取り組みがある。また他事業書との情報交換を積極的に行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に当たっては、アセスメントや情報量の希薄さから、宿泊を兼ねた体験利用は行っていない。しかし同施設内のデイサービスの利用からはじめ関係性を持つてからの本格利用など、利用者が混乱しないような工夫をしサービスを開始するように取り組まれている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日曜大工や、園芸、和菓子作りなど利用者の職歴や趣味などを生かし学びあえる環境を作り、お互いを支え合い寄り添うケアが保てるよう取り組まれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の状況を把握し、日常的な会話や仕草の変化などを把握し意向や意志の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスを行い、本人、家族の意見を確認し介護計画の立案作成に担当職員を中心として職員全体で取り組んでいる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間や利用者の状況変化に対応しながら、申し送りノートなどを利用し細かな変化の把握に努め介護計画に反映し適宜見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の宿泊は、現時受け入れていないが、家族との貴重な時間を事業所の中で快適に過ごせるよう工夫している。また地域のイベントなどを行ってもらうなど施設の条件を生かした支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望する馴染みの医師への受診が基本的に支援されている。家族との唯一の接点を受診の送迎という利用者もおり家族の送迎により受診が出来る。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現状では、体制が整っていないが利用者の状況変化に対しては家族と綿密に相談している。	○	今後は利用者の状況も考慮しターミナルケアマニュアルを作成しターミナルを受け入れるチーム作りを検討されたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者を人生の大先輩と敬意し尊厳を重視した言葉使いなどを考慮し、ケアを提供するよう心がけている。また利用者の記録物など情報の流出がないよう、保管や管理が徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースにあわせた、柔軟な対応でケアが提供できるよう心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付け調理など利用者に役割を持ってもらい、食事が準備段階から楽しめるようケアの提供に心がけている。職員も食事と一緒に加わるなどして楽しめるよう配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴が可能になっており利用者の希望により入浴することが出来る。	○	今後は、一日の中で利用者が希望している時間帯に入浴が出来るよう工夫されたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の得意な活動を取り入れた作品や物品などが随所に提示、展示または利用され、利用者の満足感や達成感などの配慮への工夫が見られる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個人的な外出にも積極的に希望に沿うように配慮し、日常的にも近所を散歩するなど外出する機会を多く提供している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所のすぐ前を大きな幹線道路が走り、交通量も比較的多い。そのため安全面を考慮し施錠した状態となっている。しかし居室からの屋外への出入りは自由となっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練の定期的な開催、また大規模災害に備えた備蓄品の設置など災害への対策も積極的に行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事の摂取量は個人個人で細かく把握されており、利用者の栄養状態や体重の増減の把握しやすいものとなっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は季節のものが設置されている。また浴室やトイレなど清潔に保たれ異臭もなく苦痛無く過ごせるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、家族や地域の住民などの協力を得て、経済的に困難な利用者も馴染みの空間で過ごせるよう配慮工夫が見られた。		